

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
石川 裕己 殿

公益財団法人日本自然保護協会 理事長 亀山 章
NPO 法人ウェットランド中池見 理事長 笹木 智恵子

ラムサール条約登録湿地「中池見湿地」を通過する 北陸新幹線建設計画に対する要望書

福井県敦賀市の「中池見湿地」はその湿地の希少性と豊かな生物多様性により、今年7月に世界的な保護区であるラムサール条約の登録湿地として認定されました。また、それに先立って2011年12月に越前加賀海岸国定公園に編入され法的にも保全されています。しかし、今年6月に認可された北陸新幹線の新たな計画路線図が8月に公表され、条約登録湿地内を路線が貫通する計画であることが明らかとなりました（別添資料1）。本計画を実行することは湿地の保全にとって以下のような重大な影響を及ぼしかねません。

- ① ラムサール条約登録湿地は、世界的にも学術上・保全上重要な湿地であり、将来にわたって永続的に保管理していくことを世界に約束した国際的な保護地域である。条約登録範囲に新幹線を建設する計画自体が、国際的な信用を失墜させるだけでなく他の条約登録湿地の保全の在り方にも大きな影響を及ぼしかねない重大な事項である。
- ② 「中池見湿地」は10万年もの歴史をもつ泥炭層を有する特異な湿地である。この湿地の形成には湿地周囲を山々が囲む「袋状埋積谷」という特殊な地形が重要である。今回明らかとなった路線計画はこの山々を貫通するものであり、水系や地下水脈など水環境の変化が生じればこの湿地全体の自然環境とその維持機構に影響を及ぼしかねない。なお、過去に行われた環境影響評価の調査・評価手法はまったく不十分であるうえに、さらに今年明らかとなった計画路線はその際の計画よりもさらに湿地の内側に変更されている。
- ③ 路線の建設が予定されている「後谷（うしろだに。地元では「おしゃたん」と呼ばれる）」はミズトラノオなどの絶滅危惧種10種をはじめとした希少種が集中して分布している場所であり、全国的にもヘイケボタルが最も多くみられるなど、中池見全体からみても生物多様性の保全上たいへん重要なホットスポットである（資料2）。現行の計画では後谷は完全に破壊されてしまう。

以上のことから、私たち2団体は次の二点を強く要望します。

- ・ 世界的な保護地域であるラムサール条約の登録範囲を新幹線が貫通することはあってはならない。ラムサール条約締約国としての責務を果たすよう現在の北陸新幹線の路線計画を直ちに変更すべきである。
- ・ 路線計画の変更にあたっては、十分な透明性と科学性のある調査及び評価を実施し、中池見湿地周辺の自然環境に影響が及ばないようにすべきである。